

朝晩、秋の虫の声が聞こえてくる今日この頃ですが、昼間の暑さはまだまだ夏を感じさせる日々です。自然災害や紫外線やエアコンなどによる目の夏バテという話も、例年になく耳にすることがありました。地球は沸騰期に入ったとのこと、今後数年は暑さ対策をしながら夏を過ごすことになりそうです。健康に気を付けて、季節を楽しみたいものです。

さて、大変遅くなりましたが、ニュースレターvo. 4として第4回CMM研究会の活動を報告いたします。

第4回CMM研究会 Center of Research for Creating Music Making  
文教大学東京あだちキャンパス はなはたステージ  
令和5年7月17日(月) 13時～17時

『音楽づくりが理論×実践で分かる・変わる！～リズム・旋律～』をテーマに、全国各地から第一線で活躍中の著名な実践者及び研究者、音楽之友社、教育芸術社の方など、計70名ちかくの参加者（対面37名）が集まって下さいました。

## Part1 ワークショップ

『子どもの創造性を働かせて、「挑戦してみたい」という気持ちを引き出す音楽づくりの授業  
＝みんなでわかっていくための教師の役割とは＝』

プレゼンター：平野次郎（筑波大学附属小学校）

平野先生の音楽づくりの実践「リズムパネル 仲間づくりゲーム」「なつやすみーなにするの♪～」「ことばあそびうた」「せんりつづくり」を体験。仲間と音を紡ぎ、どのように表現したいかという思いが音楽になっていくプロセスは、本当に楽しいものでした。私達の音楽表現を聴き入る平野先生の姿や教師の言葉がけにまつわるお話から、私達教師が子どもの思いや意図を感じ取る感性が、子どもの学習に向かう気持ちを引き出し、創造性を育むことを改めて学びました。



平野先生より

「2023年7月17日開催のCMM研究会にご参加いただきましてありがとうございました。

暑い暑い祝日の午後。きっと最寄駅から会場の文教大学東京あだちキャンパスまでたどり着くだけでも、バテバテだったのではないのでしょうか。私は、広いスペースに素敵な家具が並ぶ会場で、いつもの研修会とはひと味違った雰囲気を感じながら、進めることができました。前からご参加の皆様を拝見すると、いつも東京都を中心に関東圏でお世話になっている先生方、筑波を古くから支えてくださっている先生方、そして、遠くは山口県や広島県からおいでくださった顔も見ることができました。CMMにご参加の皆様は、いい意味で意識が高く、「お一人お一人の音楽授業観をしっかりとお持ちの方が多いな」と感じました。それが、音楽づくりでの皆様の表現に表れていました。研修会は、「新しい指導法やアイデアを得る」、「新しい価値観や考え方に触れる」、「新しい仲間に出会う」、「今の自分を知る」などのよさがありますが、CMMはそのすべてが含まれていると考えます。私も真子先生、河本先生のワークを体験して、そう感じました。

引き続き一参加者として、次回は私の仲間も誘って参加したいと思います。この度はお声かけいただきまして誠にありがとうございました。」

## Part2 ワークショップ

『いつでも どこでも だれでも Let's ヒューマンビートボックス!』

プレゼンター：河本洋一（札幌国際大学）

2つめのワークショップは、SNSが身近な現代の生活で生まれ、ダンスやアニメとのコラボレーションにより広がってきた音楽“ヒューマンビートボックス”。歌詞の発音に関する問題意識から、口の容積と形（共鳴周波数の違い）が作り出す母音のニュアンスを感じるための指導法に至るまで研究を深められた河本先生が開発した「ビートレカード」開封の儀や、飛行機離陸前かのようなプレゼンの手法にも、ワークショップへのわくわくする気持ちが膨らみました。



「ビートレカード」には、様々な字体や色で文字が描かれています。ここから、どのような声で表現するのか、1人ずつ試行錯誤をしました。ああでもない、こうしたらどうだろう…と頭の中がフル回転する感覚が生まれて、自分が納得するまで声を出して考える楽しさを味わいました。河本先生は「ひつつく パンツカ・はつつく パンツカ・くつつく パンツカ・むかつく パンツカ」を繰り返し唱え、ヒューマンボックスっぽくなるからお話してくださいました。笑いながらも何度も繰り返し唱えるとそれらしくなるものです。4～8人で4ビート・8ビートをつくる手がかりになりました。

これまで実践を通して改善された内容を受け継いで作成された教材は、現場の先生方が日々活用してブラッシュアップしています。これから「ビートレカード」のように新たな音楽のジャンルに目を向けて、目の前の子どもたちがどのような音楽をつくることのできるのか探してみたいと思う体験でした。

河本洋一先生より

pushではなくpullする仕掛け『ビートレカード』

「開封の儀」に始まり、大きなトランプのようなカードを1枚引きます。するとカードの裏には「ピー」「ドン」などの文字が漫画の吹き出しで使われるようなデザインで描かれています。その文字の形から想起されるニュアンスを込めて口で音を出してみます。すると、様々な変化を伴った声が発せられます。その声は、日常会話の声に留まらず声帯模写に近い声もあり、同じカードであっても人によって創られる音声異なります。

ビートレカードはどのような使い方をしてもよいのです。ルールがあるとすれば、それは「見たまま、感じたままを口で表現する」ことのみです。ですから、このカードを表現活動の本体に据えても、アイスブレイクにしてもよいのです。大切なのは、「こうせよ、ああせよ」という指示ではなく、表現者の内面にあるイメージを「pull」すること。「どう使うかはあなた次第」という、多用途が考えられる教材を使ったワークショップでした。

### Part3 ワークショップ

#### 『リズム・アート アイコン・マグネットで作る音楽の世界

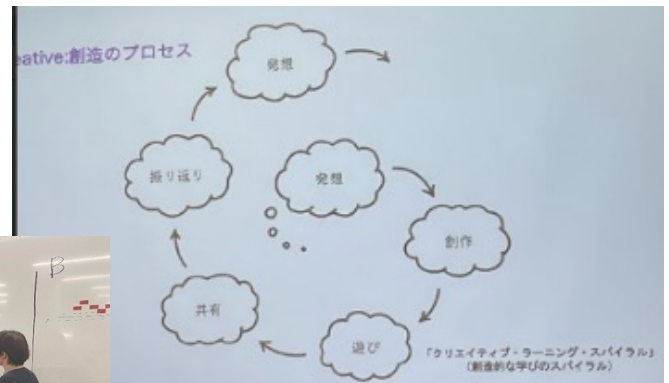
=多様性を認める創造的なアプローチの実践と研究=』

プレゼンター：近藤真子（文教大学）

最後は、近藤真子先生がアメリカで実践されたアイコン・マグネットを使った音楽づくりのワークショップとお話でした。

アメリカの音楽教育学者の知見から、子どもが好奇心につき動かされて自由に音について探究するプロセスが創造性を育むために重要であることが明らかです。日本の音楽の授業では、限られた時間内でグループで音楽作品をつくることを求めることから、子どもが音を音楽に構成するプロセスに没頭しやすくなるための工夫が必要です。近藤先生のお話を聞いていると、子どもがもつ感性を刺激する楽しい音楽活動の経験や表したい音楽について音を可視化して考える経験が、音楽科で創造性を育むために欠かせない遊びであることに、改めて気付かされる思いでした。

近藤先生のお話を聞いた後、5、6人でグループをつくり、形、大きさや長さ、色のバリエーションがあるアイコンマグネットの並べ方を工夫したり、マグネットで表した図にマジックで線を加えたりしました。その形を手がかりに持ち寄った楽器で互いの音を聴きながら、音と音の関係を結び表したい音楽のイメージを音で共有していくプロセスは、まさにcreative創造のプロセスでした。



#### 近藤真子先生より

アメリカで実践してきた音楽づくりの中から、アイコンマグネットを使った視覚イメージからインスピレーションを得ながら作る音楽づくりについて『理論x実践』でご紹介させていただきました。

音楽づくりワークショップでは、各グループの先生方がそれぞれのアイデアを仲良く、熱くぶつけ合い、アイコンマグネットとマーカーを使ってホワイトボードの壁に大きな図形楽譜を作成して下さいました。それを、持ち寄った楽器で演奏して下さいった作品は、それはそれは独創的で、「え～こんな音楽になるのー！」という興味深い作品がいっぱいで、驚きと感動でした！「マグネットとマーカー」という自由度の高い教材を使うことで、音のイメージーションがより広がったように思いました。また、つくるプロセスでは、先生方がとても楽しそうで、日頃の授業で「子どもに寄り添う」先生方の姿を垣間見たような気が致しました。なごやかな交流の中に、たくさんの笑い、大切な出会い、貴重な学びがあった充実した時間でした。

ご参加下さったみなさま、本当にありがとうございました。遠くから来て下さった先生、Zoomで意見を下さった先生、お土産を差し入れて下さった先生、細やかな配慮で準備・運営をして下さった多くの皆様に心から感謝の気持ちでいっぱいです。これからも先生方と一緒に勉強していけたらいいなと思っています。来年もぜひ、お会いできますように。



参加者の感想：

「この研究会の目指す所、提案を、一人でも多くの現場の先生方に共有したい思いにかられました。」  
「今回ご登壇の先生方に共通してらっしゃる「子供から引き出す力」そして「子供の活動の音楽的な価値付」の高さから、これからの教師のあるべき姿として多くの事を学ばせて頂きました。少しずつですが、自分の授業が改善に向かうように感じ、今心がワクワクしています。」  
「マグネットを用いた確かな手がかりによる音楽づくりが、これほど主体的な達成感と共に様々な思考の軌跡となること、たいへん知的に楽しく学ぶことができました。何より素晴らしい日となりました」  
「38℃を超える暑さも近藤先生はじめ、素晴らしい先生方の教育への情熱でなんのその！となりました。たくさんの元気と宝物の音楽教育、次をまた、心待ちにしております。」

(楽器提供：鈴木楽器製作所 / 写真：水谷早紀 / 記録：荻野靖子 / 文責：熊倉佐和子・近藤真子)

<事務局より>

◆第4回CMM研究会の様子は、月刊誌『教育音楽』10月号（音楽之友社：10月18日発売）にも掲載して頂きました。そちらもあわせて、ぜひお読み下さい！

◆ホームページ開設のお知らせ：<https://www.crcmm.com/>

CMM研究会のホームページができあがりしました！最新状況や、先生方のご活躍等どんどん掲載させていただきますので、ぜひご覧下さい。なお、掲載ご希望の内容がございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。みなさんと一緒に、役立つ、情報交換、交流の場をつくり、ご活用いただけたらと思っています。

<第5回CMM研究会のご案内>

子どもたちの創造性は、向き合う大人の創造性によって引き出されることを感じた第4回CMM研究会でした。これからも、有意義な時間を過ごすことができるように、現在、企画中です。  
次回、第5回CMM研究会は、2024年に開催予定です。詳細が決まり次第、お知らせいたします。

◆お問い合わせ：[cofr.cmm.2021@gmail.com](mailto:cofr.cmm.2021@gmail.com)（岡部 昌代）